

043 仁礼会文書目録と目録作成について

1 須坂市仁礼町の仁礼会が所蔵する大量の文書は、旧仁礼村と旧栃倉村にかかわる文書のほか仁礼村・仙仁村等 11 か村入会からなる入会山関係文書により構成されている。元禄 14 年（1701）以降、仁礼村は松代藩領、栃倉村は天領の村としてそれぞれに村の歴史をつくり上げてきている。

その歴史のなかで遺された貴重な史料群を保存し、今回『須坂市誌』編さんのためにご提供いただいた仁礼会の皆様に、感謝とお礼を申し上げたい。

2 幕末期、「天保郷帳」では仁礼村が 691 石余、栃倉村が 145 石余の村として認定され、この基本石高に基づいて年々村ごとの年貢をはじめとする諸税を納入してきている。

村の規模を人口的側面からみてみると、天保 15 年（1844）の仁礼村「五人組軒別人別御書上帳」によれば、戸数 200 戸、人口 765 人（男 391・女 374）となっている。それが明治 12 年（1879）には 207 戸、981 人。130 年後、平成 23 年（2011）2 月の仁礼町（栃倉含む）では、580 世帯、1824 人となっている。

3 仁礼会文書の最古史料は、幕府領年貢関係の基礎史料である慶長 7 年（1602）「信州高井郡栃倉村御検地帳」である。ついでは寛永 14 年（1637）「信州高井郡栃倉村新田御検地帳」がある。さらに栃倉村文書の年貢割付・同皆済目録が寛文元年（1661）から明治元年（1868）までの期間の史料として遺されていて貴重である。松代藩領仁礼村の場合は、天保 3 年（1832）以降の皆済目録が史料「覚」として幕末まで遺されている。同 3 年の小作騒動関係史料もみられる。文久元年の皇女和宮下向助郷史料も多い。松代騒動後の組内取極議定一札も残されている。地租改正初期（明治 6 年 3 月）の高反別・生米・代金等調査から改正終了までの関係帳簿のほか徴兵国民軍・戸籍帳簿が貴重である。丈量誤謬訂正関係文書も充実。ほかには、若者組・青年団活動史料が多いのも特徴的である。なお、見落とせない史料群としては入会山関係史料がある。

4 ここでは、仁礼会が所蔵する史料を「仁礼会文書目録」として目録を作成した。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「043」（43 番目）に位置づけ、史料番号は「043 - A I - 1」から開始して整理ラベルを貼付した。

文書目録は、原則として時系列により配列し、適宜時期区分して分類した。

史料点数は、以下のようになっている。

記号	分類項目	総史料番号	史料点数	箱数
A I	江戸期 I	336	336	2
A II	江戸期 II	638	638	7
B	明治期	1524	1524	13
C	大正期	443	448	4
D I	昭和期 I	419	419	2
D II	昭和期 II	229	229	2

E 入会山関係	425	516	6
F 上の問屋関係（複写）	145	686	2
合計	4159	4796	38

以上、総史料点数は4796点、5000点にせまる史料群となっている。

5 本史料目録が、仁礼会・仁礼町民をはじめ多数の須坂市民ほか、関心を持たれている地域史研究者によって、活用されることを願ってやまない。加えて、町民による新たな歴史叙述・編さんの基礎史料として、大いに活用されることを期待したい。

6 史料目録の作成に当たっては、史料活用の便を考慮して次のようにした。

- (1) 史料名は、原則として原史料中に記載された表題をそのまま記載した。
- (2) 「覚」「記」など内容未記載の史料については、「覚（船銀領収書）」のように内容説明を（ ）内に記載したものもある。
- (3) 請取史料など切手類は、数点まとめ括って整理した場合もある。その場合は、備考欄に「便宜括り」と記載しておいた。
- (4) 史料形態の表記は、次のように略記した。

横（横帳）、 縦（縦帳）、 横半（横半帳）、 紙（一紙）、
封（封書）、 冊（冊子）、 綴、 束、 など

7 本史料目録は、仁礼会のご理解とご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

勝山一男	小林 裕	井上光由	涌井二夫
竹内正勝	小林謙三	丸山文雄	

（編さん担当：青木廣安・丸山文雄）

2011年11月21日

須坂市誌編さん室